



中学部 自立活動 学習指導案

日 時 平成 12 年 2 月 16 日 (水)
2 限 9:50 ~ 10:30)
場 所 個別指導室 3
指導者 河野 俊寛

1.対象生の実態

中学部 2 年生 男 知的障害 自閉性障害 中学部から本校入学 IQ42 (田中ビネー 平成 11 年 6 月 25 日実施)

日常的な指示に対しては、音声言語での指示であっても、ほぼ従える。しかし、質問に対しては、「お腹がすいているの？」終わったの？」等の状態についても、品物や活動についても返答できない。自分がしたいことを要求する時は、したいことに関連する名詞に「～いいですか？」と付け加えて表現する。ひらがな、カタカナ、小学校 4 年生程度の漢字は、読み書きできる。嫌なことに対しては、「ぎゃー」と叫び声をあげ、部屋の隅に逃げて小さくなるという反応をする。会話は、独り言が多く混じり、難しい。特撮ヒーローに強い関心があり、家庭ではその分野のビデオを見て過ごすことが多い。パソコンのワープロソフトで、特撮ヒーローに関連する単語を打ち込んで、30 分以上過ごすこともできる。日常生活に必要な技能は習得している。

2.自立活動の時間における指導の目標

文字言語を使用して基本的な会話技能を身につける。

3.指導にあたって (抽出指導週 4 時間)

対象生がかかえるコミュニケーションの困難さは、聴覚的な情報入力の困難さに起因すると考える。視覚的には、日常生活を送る上で困らない程度の情報入力が可能であるので、視覚的な支援をすれば、ある程度のコミュニケーション技能を獲得できると考えた。そのコミュニケーション指導は、質問に対して答える、要求を表出するという会話を、文字によっておこなえば可能であると考えた。指導は、対象生と指導者が、LAN で接続されたパソコンにそれぞれ向かい、対象生が関心をもつ特撮ヒーローを会話の話題にして、チャットをしながら会話指導をするという形式で行うことにした。指導者から対象生の顔の表情が観察できるように、パソコンはノートパソコンを使用した。また、別に 1 台ディスプレイだけ用意し、対象生使用のノートパソコンのディスプレイ画面をモニターできるようにし、対象生が文章を入力している時も指導できるようにした。

4.本時の学習

(1)本時のねらい (本学期の個別指導は 12 時目 今年度としては 74 時目)

質問には、答えだけ書き、関係しないことは書かないようにする。

会話のパターンをはずれた時、「もういちど」カードを見て、途中からでも会話を続けられるようにする。



(2)準備

パソコン2台(LAN接続) モニター用ディスプレイ

(3)展開

学習内容及び活動	配時	教 師 の 支 援	教材・教具
1.入室し、着席して、名前カードをホワイトボードに貼る。	2	・テーブルの上には、名前カードのみを用意し、注意が他に向かないようにする。	・名前カード
2.始まりの挨拶をする。	2	・身振りサインも入れて、注意を喚起する。	
3.パソコンの準備をする。	5	・準備ができたら、「できました」と報告できるように、「できました」カードを机の上に出しておく。	・「できました」カード
4.チャットでの会話を始める。	20	・独力で解決できなくなった時に、支援を要求できるよう、「てつだって」カードを、机の上に出しておく。 ・会話入力中に指導する場合、混乱しないように、「ストップ」カードを用意する。 ・会話のパターンからはずれた場合は、「もういちど」カードを提示し、やり直せるようにする。	・「てつだって」カード ・「ストップ」カード ・「もういちど」カード
5.印刷をする。	4	・2倍印刷できるように、「2」という数字カードを提示する。	・「2」カード
6.パソコンの片づけをする。	5	終了したら、「できました」と報告できるように、「できました」カードを机の上に出しておく。	・「できました」カード
7.終わりの挨拶をする。その後、ノートをもって、教室に帰る。	2	・身振りサインを入れて、注意を喚起する。 ・教室の写真カードを用意し、教室に帰ることを確認させる。	・写真カード